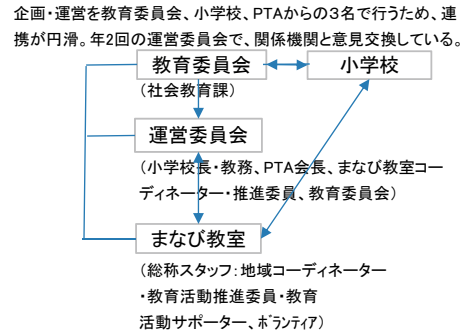


# 半学半教・間違いは財産。小さな成長を認めて、自己肯定感でやる気をUP!

● 活動名		● 関係する学校名	
神奈川県湯河原町 湯河原小学校放課後まなび教室		湯河原町立湯河原小学校	
開始年度	平成 24 年度	学級数	15 学級
生徒数		379 人	
放課後児童クラブとの連携			
一 体 型	連携型	連携状況	子供の参加人数
		(連携状況) <input type="checkbox"/> 毎回 <input type="checkbox"/> 定期的に <input type="checkbox"/> イベントがある時 <input type="checkbox"/> 活動場所を共有 (共有の活動場所)	23 人
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数	地域学校協働活動推進員の数	配置人数
0 人		1 人	実施場所
施設名: 小学校			
ボランティアの数	登録人数	属性	学習活動の有無
2 人		保護者、地域住民	有
参考 URL	まなび教室 <a href="http://www.town.yugawara.kanagawa.jp/index.php?p=&amp;d=announcing-to-public/diary&amp;c=&amp;type=article&amp;art_id=2011">http://www.town.yugawara.kanagawa.jp/index.php?p=&amp;d=announcing-to-public/diary&amp;c=&amp;type=article&amp;art_id=2011</a> 小学校 <a href="http://www4.airnet.ne.jp/yugawara/">http://www4.airnet.ne.jp/yugawara/</a>		
● 連絡先	湯河原町教育委員会社会教育課		☎ 0465-62-1125

● 体制図



● 活動の概要・経緯

小学校主体で放課後の子供の居場所、自主的に学ぶ場として平成24年度に開室。登録児童の内、1～3年生が火曜日、4～6年生が木曜日に学校施設を利用して活動している。毎回、様々な体験講座、まなびを軸にした内容を教職経験者や教員免許保持者、学校保護者で企画しており、スタッフは学校保護者や地域住民が研修を受け、温かく見守っている。企業と連携したコンピュータプログラミング学習や地域施設（美術館、図書館、パークゴルフ場、足湯）の利用、地域講師や慶應義塾大学との連携講座も設けている。体験を通し、得意を見つける事や小さな成長を褒められる事で、子供の自己肯定感が高まり、学習に積極的になる、問題行動が少なくなる、人間関係に積極的になる等の様子が見られた。子供自らの成長をアシストする活動となっている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

全体：地域講師や保護者の力を借りた多種多様な体験講座（PCプログラミング、英語、オリジナル実験や学習ゲーム、調理実習、運動教室、ダンス、フラワーアレンジ、工作、百人一首等）、また、ライフセーバーによるプール講習、高齢者によるパークゴルフ講習など、多世代の触れ合いや地域施設の活用もしている。特筆活動①中高学年が全ての企画・運営を担う文化祭形式のハロウィンでは、必要な物の調査や利用場所の交渉役も子供が担っている。段ボールなどを使い、お化け屋敷や射的、フェイスペイント、アトラクション等を準備し、当日は多くの来室者を楽しませている。②IT活用（PCプログラミング）：前年度の企業協力講座でプログラミングを受講した子供の「子供が先生になり、都会ではない湯河原からプログラミングを広めたい。」という意見を基に、全学年でプログラミングを定期学習している。日本ではまだ参加の少ない世界的プログラミングイベントの「Hour of code」にも参加した。

【実施にあたっての工夫】

キーワードは<自己肯定感><環境><スタッフ><自己肯定感>小さな成長を褒め、周囲や保護者にも伝えている。<環境>モットーで認識共有し、競争よりも個々が自己実現できる空間作りに努め、発表する機会も多く設けている。①「半学半教」大人も子供も平等。苗字ではなく下の名前に「さん」付けで呼び合う。子供も先生、大人も生徒になる空間。②「間違いは財産」間違いや恥も貴重、同じ間違いをしない為に気を考える。③「他人ではなく比べるのは過去の自分」<スタッフ>研修で、寄り添える良質な人材を育成し、心の居場所づくりを目指している。学校の教育課程では難しい「まなび体験」をオリジナル講座や教材の考案等、「楽しければ、自らまなぶ」を目標に工夫している。また、企画・運営者を教育委員会・学校スクールサポーター・PTAで構成し、事後ミーティングで日誌を記入し、気になった子供の言動は職員室と共有する等、学校施設の利点としても連携が円滑になるよう努めている。

● 事業を実施しての効果・成果

①自己肯定感を高める事で、積極性など大きな変化が見られた。②間違える事は財産だと認識されている環境では、学習に自信のない子や大人しい子も、次第に臆せず意見を述べるようになっていく。③家庭での学習習慣や講座への感謝を保護者からされる。④悩み事の相談やおばあちゃん世代に甘えたり、校外での声がけや卒業後にサポート役として来室する等、新たな関係や地域サイクルも生まれている。⑥子供主催企画では、交渉力や責任感、発想力や思考力を鍛え、大きな成長が見られる。⑦丁寧な個別対応学習（学習遅延気味の子には実物利用での理解や学年下のドリル復習、自力で答えに辿り着いた後に大人に教える子供先生）で学習に自信や積極性が生まれている。

● その他

企業との連携：株式会社日本マイクロソフト（タブレット端末の無償貸与）、CA-Tech Kids（PCプログラミング講習・相談）。ICT活用：タブレット端末でプログラミングを定期学習。



「実験算数」(1～3年生)



「PCプログラミング」  
Hour of Code

ポイント

学習や運動、最先端のプログラミングと非常に幅が広く、中身の濃い内容だと思います。子供たち自身で企画するイベントがあることが、更にこの活動を素晴らしいものにしていきます。